ご挨拶

人類が世界の各地において営んできた文化・文明を研究するには，複雑多岐にわたる情報を，総合的に研究することが必要です。さらにその成果を比較して人類史を考えるためには，極めて膨大な量の情報を集成して考察することが求められます。

21世紀において，このような研究をおこなうためには，研究法の飛躍が不可欠であると考えて，私達はこの3年間，日文研共同研究「歴史的空間情報の解析・解釈法の研究」を進めて参りました。第24回国際研究集会「世界の歴史空間を読むーGISを用いた文化・文明研究—」は，その成果を発信するとともに，欧米・アジアで先端的な研究を行っている研究者を招き，その方法と成果を学ぶことを意図して開催するものです。

文化・文明の研究資料は実に多様ですが，時間・空間情報をもつという共通点があります。この点に着目して私達は，考古学・地理学・情報学の学際協力を基盤としつつGIS（地理情報システム）を活用した研究の試みを進めてきました。

GISは，時空間情報をもつ多くの情報をデジタル地図上に表示して，色々な空間解析をおこなうことができる「すぐれもの」のソフトウェアです。そのため文化・文明研究のように，膨大な資料を扱い，かつ比較にたえる客観的なデータを作ることが必要な分野では大きな威力を発揮します。

GISを用いた研究は，20世紀第4四半期に，欧米において急速に発展したものですが，日本をはじめ欧米以外では，まだ端緒的な試みにとどまっていました。その一つの理由は文理融合型の学際研究がまだ未成熟であったからと思われます。本国際研究集会の開催と討論が，本研究の有効性が周知されて，アジアにも広く根づいていく契機になることを心から願うものです。

今回のシンポジウムに参加いただいた皆様，またその開催にご助力いただいたすべての皆様に心より厚くお礼申し上げます。

2005年2月
第24回国際研究集会実行委員長
宇野 隆夫